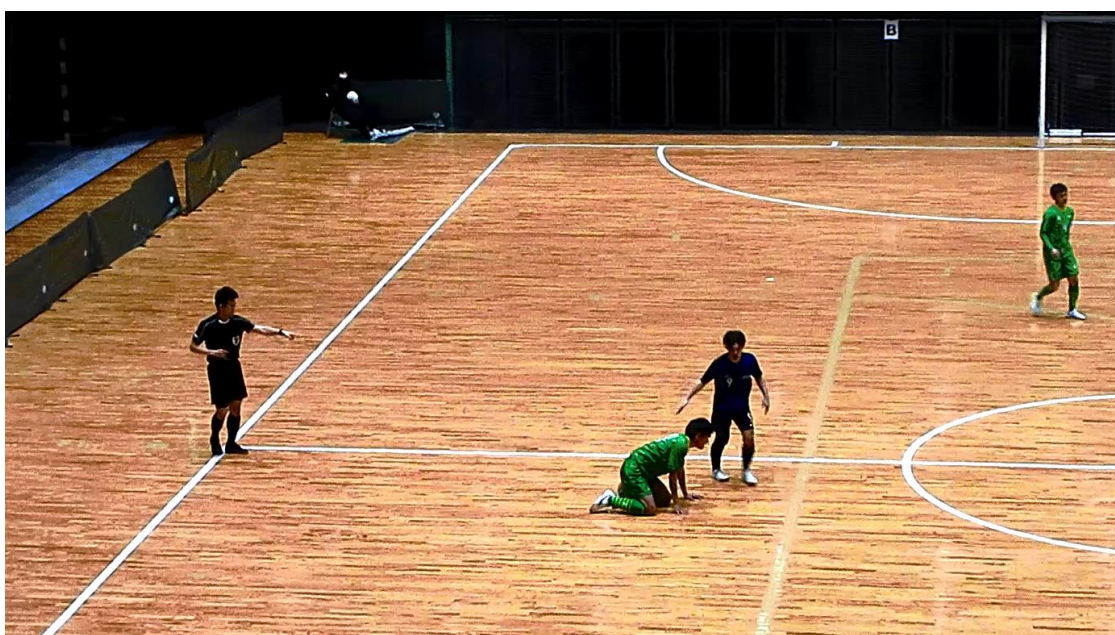


● 第38回全国選抜フットサル大会 (1月27日～29日 岡山市総合文化体育館)

- ・地域のF2の方が第2審判、第3審判、タイムキーパーを担当されていた。フットサル2級を取得されたサッカー2級審判員の方も参加されていた。第2審判は主審との連携が必要な場面、第3審判はベンチコントロール、負傷者の対応が必要な場面が地域リーグよりは多く見られた。この経験を地域リーグのレフェリングや審判指導に活かしていただきたい。
- ・F1の方のレフェリングは安定した判定基準に加え、態度、シグナル、ジェスチャー等に毅然さを感じた。サッカー同様に審判員としてのプレゼンスを発揮することが1級審判員に不可欠なものと思う。
- ・27日の3試合目がF1の3次審査であり、関東と九州の審判員が審査に臨んでいた。次のポジションに移動する動き出しの速さ、ボールと争点を見る体の向き、マネジメント（FKや選手への注意など）は地域のF2の方にとって参考になるパフォーマンスと感じた。
- ・JFA 審判委員会フットサル・ビーチ部会長の延本氏に中国フットサル審判フォーラムのお礼を述べるとともに、中国地域の状況について短時間であったが意見交換を行った。





●第1回中国クラブユース (U-14) サッカー大会 (1/28・29 2/4・5)

【視察 1回戦 周防大島 長浦会場】

- ・ボールポゼッションから攻撃を試みる時間帯もあったが、試合終盤になると縦パスを多用しFWを走らせる攻撃が目立った。U-15に比べるとスピード、接触の強さは劣るものの、球際の競り合いは多く見られた。
- ・山口県内であった1回戦2回戦は山口県クラブユース連盟の方で審判割り当てをされていたということであった。この試合の主審は3級の方であり、副審はユース審判員が担当していた。オフサイドの判定に加え、wait、フラッグアップのタイミングは問題なかったが、タッチライン、ゴールラインのインプレーかどうかの判断に課題を感じた。また、PK方式の際に、ゴールキーパーの飛び出しが早いということで副審がフラッグアップをし、主審がそれを採用し、PKをやり直した場面が見られた。
- ・副審は審判服ではなく、ジャージの上にビブスを着用していた。ユース審判員の割り当ては活躍の場を作るという意味では積極的に進めるべきと思うが、審判資格を取得した審判員が行っているという証である審判服とワッペンは必須と考える。また、中国大会という価値を高めるためにも必要なことではないだろうか。

